



## 要件不備に挑む事例研究セミナー 大盛況！！

去る11月14日・15日に標記セミナーを当社で開催いたしました。当社の業務担当が「開闢以来」という大入りで、2日間で情報サービス業の38社64人の皆様にご参加いただきました。情報サービス業、特に元請けをしておられる企業にとって、要件不備は死活問題になっていることが率直に反映されたものと思われまます。また、要件不備で決定的なダメージを受けておられなくても、要件が

もっとすっきり決まっていれば仕事は楽なのに、あるいはもう少し儲かるのに、と思っておられる企業もおありでしょう。そういう方々をご参集されたのです。

その骨子は以下のようなことでした。当日紹介されましたのは、住商情報システム(株)殿の事例で、コース開発と実施は同社と当社が共同であたりました。

1

住商情報システム(株)殿がこのように公開されましたのは、「この問題は一企業で取り組むべき問題ではない、関係者が力を合わせて臨まなければならない」というお考えからです。

### 1. 開発の経緯等

- 「経営に大きなダメージを与えかねない要件不備を何とかしよう」という経営の強い意思がきっかけで、早く結果を出すという方針で、コース開発と実施を行いました。
- 昨年4月にコース開発の意思決定を行い、今年6月には第1期生の研修を開始しました。
- 今年度は1組(1期)定員25人で、第5期まで計画しています。定員割れの組もありますが、定員オーバーの組もあります。

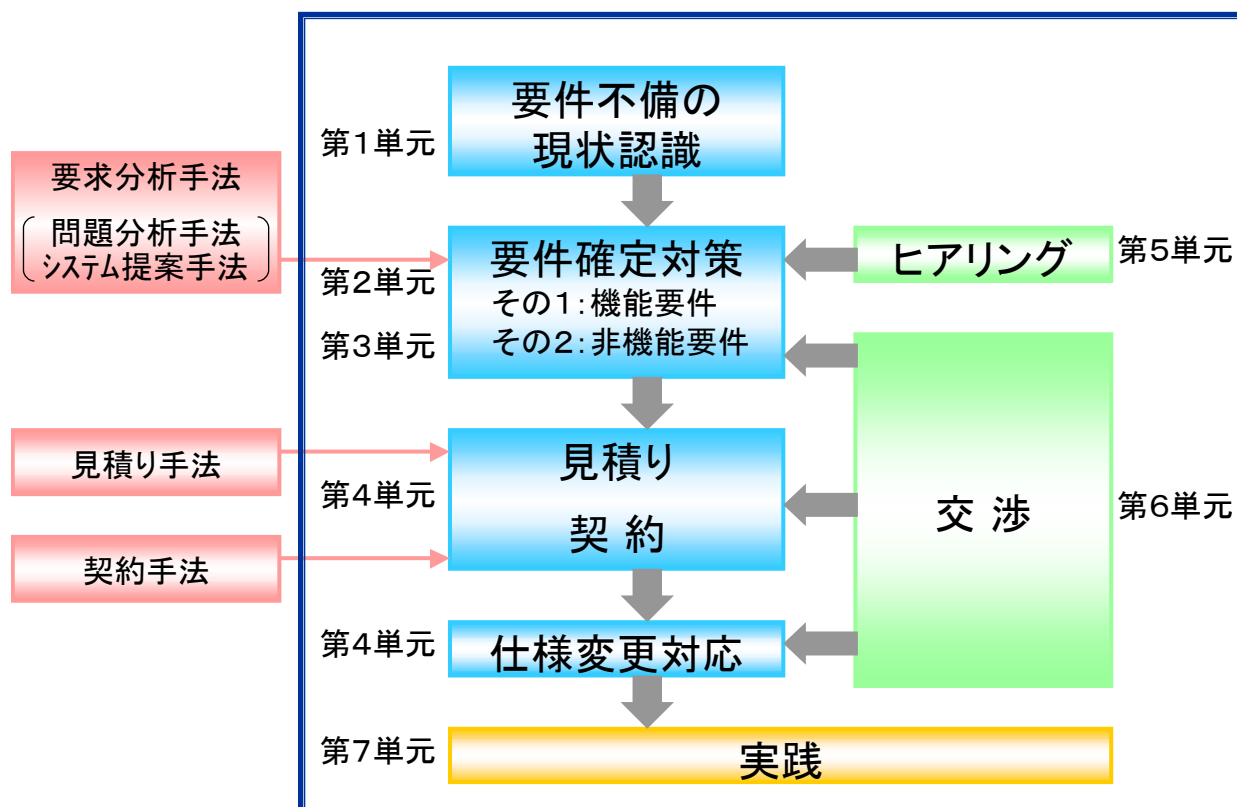
### 2. この研修の内容

(同社では訓練と言っています)

- 以下の図表1のように7単元(1単元=1日)から構成されていて、最後の第7単元は、第6単元までに学んだことを現場で実践し、その結果を発表していただくものです。
- この実践発表がついていることで、単なる研修で終わるのではなく、経営が期待する即効性につながってくるのです。この実践は受講者からも大好評です。
- 詳細の内容は、前号の「要件確定問題の前進を目指すS社の画期的取り組み始まる！」をご参照ください。

2

図表1 当研修の構成



3

### 3. この研修の特徴

- 実践を強制する対象は、各単元で提供している合計17種類のテンプレート、ガイド、チェックリスト類です。これらは即使える実践的なものです（2. で前掲の前号記事参照）。

### 4. この研修の成果

- (セミナーでご紹介しましたが) 大小さまざまな実践効果が実現しております。
- それよりも主催者側としてうれしいのは、各部門が、受講者からの報告を受けて、他のメンバにも広めようという動きをされていることです。それが、「この研修は効果がある」という証明だと思われま。

セミナー当日とその後の皆様の動きですが、問題意識の強いトップやマネジメントが主導されている企業様からは強い反応をいただいております。早速テスト実施を決めていただいております。お客様のほか、来期の実施をご検討いただいているのは超大手ITベンダ様を含め目下数社おられます。他社との連携を含め、実施体制の整備を検討中でございます。

少し観点が異なりますが、要件確定を具体化した作業としての要件定義につきましては、本号で特集を組んでおりますのでご覧ください。

要件定義のことを含め、ご相談はどんどんお寄せいただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(上野則男 記)